

2017.03.01

東京大学工学系研究科交換留学プログラム留学報告書

機械工学専攻 修士課程 2年 堀江真央

派遣先大学: ミュンヘン工科大学(ドイツ)

期間: 2015年9月~2016年7月

卒業後の就職先: トヨタ自動車

1.概要

・派遣先大学について

私が留学したミュンヘン工科大学(Technical University Munich, TUM)は工学系分野ではドイツ国内トップレベルの名門校であり、Times 紙が 2016 年に発表した大学ランキングでも「就職活動で高い評価を受ける大学(Employability ranking)」の部門において東京大学の世界第 10 位という順位を抜いて第 8 位に入るといって高評価を受けている大学です。

ドイツにはアーヘン工科大学やカールスルーエ工科大学などの Exzellenzinitiative と呼ばれる名門大学がいくつかありますが、その中で TUM はコンピューターサイエンスや情報機械工学に強みを持っているようで、ハッカソンなどのイベントも TUM のあるミュンヘンでは盛んに開催されているようです。

また、東京大学と異なる特色としては、MBA コースを学内に有しているためビジネス関連の授業のラインナップが比較的豊富です。

・インターンシップ先

私は縁あってドイツの企業でインターンシップに参加させて頂ける機会があり、2016年の3月から5月のおよそ三ヶ月の間、ドイツ南西部の Abstatt にある Bosch Engineering GmbH にて就業体験をさせて頂きました。

ドイツでは学生が大学在学中にインターンシップに参加することは非常に一般的で、TUM で機械工学を学ぶ学生にとっては学部時代に半年間の実践経験を企業等で積むことが必修となっています。その後に大学院に進学した場合、インターンで成績を残した学生は再びその企業に雇用され、修士論文をそこの研究活動を基に執筆するということもあるようで、ドイツでは日本よりもインターンシップ経験が就職活動に与える影響が大きいそうです。

そのため、日本人の留学生にとってはドイツへの交換留学中に就業体験するなど異例ではあるものの、中国やインドの留学生の間ではドイツ国内で就職するために留学期間中のインターンシップにアプライする学生が多く、私が学校や企業に手続きについて質問したときも、一旦受け入れが決定したあとはスムーズに手順を進めることができました。

ドイツで発行される学生ビザにも明記されていることなのですが、学生ビザ取得者の給与を伴うドイツ国内での労働は、全日勤務であれば 120 日間、半日勤務であれば 240 日間まで制度上許可されています。

2.留学準備

・留学目的

私が今回の留学に踏み切った原因については勿論色々あるのですが、一番大きかったのは、東京大学にせっかく在籍しているのに大学のことを出来るだけ活用しないのはもったいないという思いが強かったからだと思います。特にミュンヘン工科大学への学生派遣は私の前の数年間は行われていなかったので何事も自分で一から調べる必要があり、たしかに留学活動における奨学金やビザ取得などの手続きは煩雑でしたが、全て遂行できたのは、やはり大学を利用して出来る限り自分の行動範囲を広げたいという好奇心が湧いていたからでした。

そして、交換留学の推薦を頂いた後の日本滞在猶予の期間では、2016卒学生対象の就職活動が3月から解禁されていたので、留学のため2017年度の卒業予定になる旨を企業に伝えながら可能な範囲で就職活動に参加していました。その過程で、自分が将来やりたいことや進路についての迷っていることなどを考えるようになり、最終的にはその疑問を解消していくことももう一つの留学目的になりました。

ドイツは近年のギリシャ危機を契機にEUにおけるリーダーとして存在感を増している国であって、経済的にも政治的にも技術的にもこれからの時代の変化を考える上で色々な要素を経験できる環境だったので、これらの目的を追うのに適した留学先でした。

・留学準備一般

留学の準備は渡航の一年ほど前から行いました。東京大学からの留学枠はいくつか種類があり、全学交換留学など工学系研究科の協定以外の枠にも出願していましたが、ミュンヘン工科大学への学校推薦が最も早い段階で頂けたので、その時点で留学先をこちらに絞って準備を始めました。工学系研究科の協定を利用した留学が一番募集の期間が長く、どの留学先についてもOICEのホームページに募集期間が掲載されているのですが、私のような10月からの留学の場合はその年の5月までに推薦を受け取ることができれば、手続き自体は間に合うそうです。実際に推薦が頂けたのは、交換留学への応募から英語での面接を経て約一ヶ月程度で、留学期間については後から短縮することは可能なので始めは滞在期間を長めに申請しました。

推薦が早く頂けたため履修計画の作成や奨学金への応募などは早い段階から始めることができ、留学活動とは別の東京大学の授業の一つの「海外ヒストリックラリープロジェクト」へも並行して参加し始めました。この授業では、私の留学と同時期にフランス南方のモンテカルロで開催される競技大会に出場を目指していたため、そちらの活動と留学を組み合わせるという計画にも取り組むようになりました。

東京大学の卒業単位に関しては、基本的には全て渡航前に揃えました。機械工学専攻には長期インターシップという授業科目があり、GMEでの留学活動を研究科に報告することで単位が認定されるシステムがあるのですが、私の交換留学活動もその単位に該当するかについて担当の塩見先生に渡航前に相談していました。この単位は帰国後に報告会にて活動発表をすることで取得しました。

就職活動に関しても、2016卒対象の就職説明会などに参加するなどをして渡航前に企業の方の連絡先を集めていました。また、OB訪問なども積極的に行うことで企業研究もある程度は済ませ、ドイツに滞在している企業の方なども紹介して頂けたりしていました。

あとは、入寮までの滞在ホテルもすぐに抑えました。オクトーバーフェストの開催期間はミュンヘン市内のホテルが一泊2万円程度まで高騰するので早めに抑えた方が良かったです。

・寮の割り当てやビザ等の手続き

ミュンヘン工科大学への留学の場合、東京大学から推薦が送付されると指定 web ページでの留学生登録をするように連絡が来ました。その登録の際に留学期間の入寮を希望する旨を申告すると、10月からの留学の場合は7月頃に admission letter が届いた後、Studentenwerk という団体から8月中旬に振り当てられた寮についての連絡がきました。この時点では寮のどの部屋になるかは決まっておらず、渡航後に Olympiazentrum という駅の近くの Studentenwerk 事務所での所定手続きによって決定され、その時の書類を寮の Hausmeister に提示することで鍵が渡されました。

ビザ関連の書類手続きに関しては、基本的には日本のドイツ大使館の HP を見れば概要が書いてあり、勿論これから制度が変わることもあり得るのですが、以下はとりあえず私の場合について書いていきます。

学校寮は上述の通り Studentenwerk という学生相互扶助団体によって割り当てられるのですが、その割り当てられた寮の契約書を KVR と呼ばれるドイツの市役所にあたる機関へ提示して住民票を取得するところから手続きは始まります。この住民票取得の手続きを渡航後一週間以内に済ませた後は、渡航後 90 日間の間に所定の書類を一式揃えて KVR に提出することでビザが発行され、パスポートに貼り付けられます。ビザについてのおお半分の書類は渡航後に集めることになるのですが、発行に必要な「経済的能力証明書」だけは、おそらく両親の印鑑が必要になるので渡航前に準備しないと面倒なことになります。10月はビザ取得の受付が混み合うので、11月か12月までビザ取得は待った方がいいかもしれません。

また、もう一つ大事な書類がドイツ国内の保険の契約書です。ドイツではビザの取得のために国内で認可されている保険会社と契約を持っていることが必要となり、東京大学で指定されている「付帯海外学生保険」に加えてもう一つ保険を取得することが必要となります。保険会社はいろいろあるのですが、毎年 TUM では渡航後の学生手続きの際に大学の国際交流課へ向かうと、その出口で保険の勧誘をやっているのものでそのまま契約してしまうのがいいと思います。私のときは AOK という会社と TK という会社の 2 社が勧誘を行っていましたが、両社の契約内容はあまり変わらず、結局私は TK の保険を利用していました。

・日本から持参した方が良いもの

クレジットカードは留学中に紛失や限度額、スキミング被害などによって利用できなくなることがあるので、複数枚持って行った方が良いです。食べ物で言うと、粉末のダシや味の素とかは日本から持ってくと便利だと思いました。自炊すると炒め物とかが多くなるので、焼肉のタレとかは便利でした。日用品では、コンタクトレンズやアイボンなどの洗眼料も現地購入が怖かったので必要数は日本から持参しました。他、ドイツビール図鑑などを持って行ったらもっと面白かったかなと帰国してから後悔したりしました。

・現地で購入したもの

掃除機は寮の共有のものがありましたが、面倒だったので Karlsplatz の Saturn で購入しました。値段は €69 で少し割高でした。あとは、€50 のオーブントースターも購入し、スーパーで買った冷凍ピザやグラタンなどを食べる際に重宝しました。服に関しては、冬服だけ日本から持って行き、夏服は現地で購入したものを着まわしていました。ヒートテックは便利でした。ただ、上着だけはドイツのものの方が暖かいので、現地で購入しました。

以下、学習した授業の例をいくつか挙げます。

- **Engineering Management (Winter semester)**

講義の回と発表の回で半数ずつ分かれている形式で、成績評価は発表の出来映えと期末試験及び口頭試問の結果によって行われていました。内容はケーススタディと一般に言われるもので、講義の回にビジネス用語を学習し、それを用いて振り当てられたテーマの発表を行い、質疑応答で議論するという流れでした。例えば、想定されたいくつかの **Product** の **Market share**, **Market growth**, **Annual cost** などを設定し、予算を **20%**削減するにはどの **Product** の製造ラインを削ると利益を最大限維持できるのか、などというテーマがありました。

- **Investment and Financial Management (Winter semester)**

バリュエーションの原理とディスカウントキャッシュフローの計算方法及び概念を講義で例題解説するというのが主な内容で、後半の数回でケーススタディを行うという形式の授業でした。**Profitability**, **Liquidity**, **Working capital**, **Interest coverage** など経営資本を扱う基礎となるような概念の学習に焦点を当てていて、HKUST の MBA を取得した博士の学生が授業を主に担当していました。学習内容が多いので復習が大変ですが、面白い授業でした。

- **Sales & Operations Planning in the Automotive Industry (Spring semester)**

私はインターンシップと就職活動のため 6 月まで TUM に通うことができず、春学期は資料のみもらって学習しましたが、春学期の授業例として一応掲載します。内容としては、ドイツと日本の自動車企業の製造システムの比較と、世界各地での市場シェアの内訳の比較などがありました。各々の特徴を列挙してその長所と短所を並べる形式で、日本の自動車企業が世界的に存在感を示していると実感できる授業でした。

- **留学中の活動**

- ラリープロジェクト

留学の準備についての話でも触れましたが、私はドイツ留学中での活動に向けて「海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト」という工学部のゼミにも参加しており、ドイツのラリーチームと **Rallye Monte-Carlo Historique(RMCH)**へ協力参戦することを目指していました。「海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト」は学生が整備した競技車を用いて海外の国際大会に参戦することをコンセプトとして、6年間継続して毎年行われている工学部の正規授業でしたが、国際ラリー大会へのチーム参戦というのは初めての試みでした。前例がないことに挑戦するというのはとてもやりがいがあり、顧問の草加先生にドイツ留学とこのプロジェクトを組み合わせたいという私個人の要望に柔軟に取り合って頂けたこともあって、ミュンヘンに渡航してすぐにドイツのラリーチーム代表の方に飛び込みで会いに行き意気投合するなど、私にとって自分の実力以上に海外で主体的に活動できるきっかけとなったプロジェクトでした。結果的に **RMCH** へ出場できなかったというのは残念でしたが、私個人では直接大会の本番にドイツのラリーチームの方に会いに行き、大会終了後にパルクフェルメで開かれていたパーティーに参加させてもらうなどの貴重な経験ができました。ドイツは自動車産業と関わりの深い国なので、このプロジェクトを通して学んだ自動車に関する知識から派生して深く理解できたドイツ文化も多くあり、オリジナルなやり方で留学をさらに有意義にすることができたのはこのプロジェクトのおかげだと思っています。

・トビタテ交流会

12月のクリスマスの時期にミュンヘンの Airbnb を手配して交流会を開きました。クリスマスの当日はドイツのお店はほとんど休業してしまうため、みんなで集まった方が楽しいのではないかと趣旨で企画を始めたのですが、「トビタテ留学奨学金」という奨学金受給者のネットワークを辿って世界各地に留学している日本人留学生を募ることができ、最終的にはアフリカやアメリカなどからの参加者を含めて30人程度の学生で合宿交流会を開くことができました。ミュンヘンの駅で集合してクリスマスマーケットを楽しんだ後、ビアホールで歓迎会を行い、翌日はノイシュバンシュタイン城にみんなで行って記念撮影、夜はグリューワインなどを Airbnb の宿で料理、そして事前に集めていた各自の留学写真のスライドショーを放映するという内容でしたが、ミュンヘンの学生みんなで企画して行ったこのイベントは合計で1ヶ月以上かけて準備していたこともあって、ドイツで互いに協力しあった良い思い出になりました。

・日本人会のイベントへの参加

前述のラリープロジェクトでは、大会で渡航する国の日本人会の方にお世話になっていたことも度々あるようで、私もその関連もあってミュンヘンの日本人会と連絡をとっていました。すると、日本人会の方からも、しばらく前までは日本人のミュンヘン留学生が日本人会のイベントに参加することが多かったのに最近では少ないということで、是非留学生の人にも日本人会のイベントに来て欲しいと招待して頂くことができました。12月中旬のクリスマス会が最初に日本人留学生の皆で参加したイベントだったのですが、そのあとも立て続けに新年会やビアフェストなどに参加し、ドイツで働かされている日本人の方から様々なお話を伺うことができました。また、トビタテ交流会のときにもスライドショーを投影するためのプロジェクターをお借りするなど、大変親切にして頂きました。今後ミュンヘンに留学する学生にも是非日本人会の方との交流を深めていって欲しいです。

・drivenow

この drivenow というのは活動というより、BMW が行なっているカーシェアのサービスなのですが、留学中は度々使う機会があったので、ここに書かせてもらいます。drivenow はオンラインで登録したあとに中央駅などにある Sixt などのカーレンタルの受付で ID カードを受け取れば誰でも使えるようになるサービスです。日本と違って欧州では駐車場が少ない代わりに路上駐車が多いのですが、街の至るところに駐車されている drivenow 所有の車両の位置をアプリで確認することができ、そのまま予約して利用することができます。料金もそれほど高くなく、専用のカーナビによって指定された領域内であれば乗り捨てでの利用もできるので、引越しや近距離での旅行の時に重宝しました。ドイツは国際免許のジュネーブ条約には入っていないものの、国際免許を日本の免許の簡易英訳として使うことができるため、国際免許と日本の免許の両方を携帯していれば運転することができます。アウトバーンで時速 200km/h 超の運転を試してみたいという人にとってはありがたいサービスだと思います。

・TUfast (<http://www.tufast.de>)

TUM にある学生フォーミュラのチームが TUfast で、Audi などの企業の支援もあって精力的に活動しています。TUfast はモータースポーツを通じた国際交流にも積極的で、私自身はあまり参加できなかったのですが、過去に東工大の日本人学生が参加した例もあるらしく、渡航の前に知っていれば活動計画に盛り込むことができたかもしれないのにと後悔したりもしました。

・学習面でのアドバイス

機械工学専攻について言えば、基礎的な内容の授業は恐らく東京大学の授業よりも深い内容をやっているということではなく、ドイツ語での授業も多いのであまり期待しない方がいいかもしれません。テーマをもう少し絞った授業だと、TUM は日本よりも風力発電や航空産業に関する授業が多いかもしれません。ドイツは東日本大震災を契機にエネルギー政策を抜本的に変えてしまったので、風力発電に関してはその頃の名残ということだと思います。あとは、もちろん自動車に関する授業は多いです。地元企業の BMW が車体軽量化による電気自動車の走行距離向上などを行なっていることもあり、CFRP などの炭素繊維技術に関する授業が多い印象があります。

また、日本の理系学生でドイツ語を身に付けたいという学生はそう多くないとは思いますが、ドイツ語の授業は取った方がいいと思います。私も渡航前は語学としてのドイツ語にそこまで興味があったわけではなく、授業期間も RMCH に被っていたため受講していなかったのですが、留学期間中にはドイツ語で書かれている機械工学系の論文も多く目にする機会があり、専門の学習を深める上でもドイツ語学習が有益であることを実感するようになりました。また、語学系の授業では内容的にも交流を促進するようなプログラムになっているため、受講すれば留学中の活動の幅をさらに広げることができると思います。大学への入学前に開催されているドイツ語学学校での語学研修も、時間や資金に余裕があれば受講した方が良いスタートを切れると思います。

4.留学中の生活

・滞在場所

ミュンヘン市内の地下鉄は U1 から U8 の 8 路線がありますが、TUM の機械工学専攻の学生は北に伸びる U2 の Theresienstrasse と U6 の Universität の間にあるメインキャンパスと U6 の Garching のすぐ側にある Garching キャンパスのどちらかで授業を受けることが多くなると思います。そのため、学生寮もこの 2 つのキャンパスの間にある駅の Kieferngarten か Studentenstadt のどちらかの寮になり、私は Kieferngarten の寮を振り当てられていました。他の専攻の人たちは U3 の北側にある Olympiazentrum という Studentenwerk の事務所近くの駅にある寮に割り当てられている人が多かったです。

・生活環境

入寮の当初は全くハウスルールを知らないまま部屋に入り、ベッドや wifi 環境がなくて苦労しましたが、一ヶ月ほどした後に同じ寮に住んでいるドイツ人学生がボランティアでやっている留学生チューターの人たちが部屋を周ってきて、オリエンテーションを行ってくれました。バー、パーティールーム、ジム、学習室、卓球台、演奏室、DIY 用部屋などが揃っていて、主にその使い方などを教えてくれました。

洗濯機や乾燥機は部屋の鍵と同じ鍵で入れる地下室に並んでいて、一回 50 セントで利用することが出来ました。ゴミは基本的に燃えるゴミと燃えないゴミは分別する必要がなく、寮の外にあるゴミ圧縮機の中に投入するだけで大丈夫でした。紙類とガラス製品は分別する必要があり、それぞれ捨てる場所が決まっていました。粗大ゴミ等は寮各階の共有スペースに置いておけば誰か欲しい人が取って行ってくれました。

wifi 環境に関しては、チューターの人に言えばその場で wifi ルーターを購入できて、そのまま IP アドレスなどの設定までしてもらうことができました。ただ、ファイヤウォールの設定上、スカイプを 30 分してしまうと回線が遮断されてしまうため、日本との長電話は LINE を利用していました。

困ったトラブルとしては、11 月と 4 月に水道が一時的に止まったことと、蛍光灯の寿命が切れただけで洗面所の電気が使えなくなってしまったことがあります。ドイツでは暖房として部屋を温水が流れる設備を利用するので、その設備のメンテナンスのために日中の水道が止まってしまうことがありました。その予告の手紙がポストに届けられはするのですが、ドイツ語で記載されている手紙なので読むのをほっておくとトイレやシャワーなどが突然使えなくなって困るということがありました。蛍光灯のトラブルの方は、部屋の仕組みとして、蛍光灯が壊れてしまうとコンセントが使えなくなるような仕様だったので、蛍光灯の寿命が切れて洗面所の電気が全て使えなくなってしまったことがありました。Hausmeister に言えば直してくれるのですが、会える時間が限られている上に英語が通じなかったのですぐに直すことができず苦労しました。

他については、水が日本と違って硬水であるため、肌が弱い人にとっては肌荒れなどのトラブルがあったそうです。私も料理などにはペットボトルで買ってきた水を使うなどして気を使っていました。あとは水垢などがすぐに溜まるので、こまめに掃除する必要がありました。

旅行については、FlixBus(<https://www.flixbus.com/>)やバイエルンチケットを使えばミュンヘン近郊へはかなり安く行くことができます。バイエルンチケットとは DB の券売機で購入できる州内の 1 日乗り放題チケットで、人数が多いほど安くなるため、5 人以上の人数で日帰り旅行なら往復€10 ほどで楽しむことができます。ミュンヘンのあるバイエルン州ではザルツブルク、フュッセン、レーゲンスブルクなどが人気でした。高速鉄道の TGV や ICE を利用する場合は、一週間ほど前に予約を取れば日本の新幹線よりもかなり安くチケットを買うことができます。また、モロッコなど日本から行きにくい場所への旅行もおすすめです。

最後に、現地での留学生どうしの所持品交換についてですが、ミュンヘンは毎年多くの日本人が留学する都市なので、留学を始める前の学生と留学から帰国する前の学生が連絡を取り合って所持品の受け渡しをするということも多かったです。東京大学からの留学生よりも北大や九大、その他の私立大学からの留学生の方が多く、フェイスブックや留学生どうしのコミュニティを通して東大生以外のミュンヘン留学生とも交流を広げておくと良かったと思いました。また、日本から両親に荷物を送ってもらった時は、DHL を用いたのですが、発送からおおよそ 2 週間～3 週間の期間が到着までかかりましたし、内容物とその相当金額を一つずつ記載しなくてはならなかったり、Leipzig の DHL の集積所にもパスポートや渡航券の情報をメールで伝える必要があったりなどやや面倒でした。

・費用など

固定費は家賃が毎月€300、保険料が€80 程度でした。インターンはミュンヘンから離れた場所だったので、期間中は Heilbronn という町の部屋を WG-Gesucht の web サイト(<http://www.wg-gesucht.de/>)で追加手配しました。こちらの家賃も毎月€400 ほど追加で支払いましたが、インターンシップの給料で賄っていました。インターンシップはアプライのときに taxID というドイツの納税者番号を登録する必要があり、外国籍の参加者はインターン終了後に天引きされていた所得税が返却されるため、現地の学生よりも実質的な受給額がやや多かったです。

5.就職活動

・留学が就職活動に与えたメリットとデメリット

私の場合はドイツ渡航後に経団連が採用活動開始時期を変更してしまったため、留学計画を変更して一時帰国する必要ができてしまったり、時間的な都合で学科の推薦を受けることができなかつたりなどというデメリットがありました。それ以外で困ったことは特になかった。採用選考が開始される6月までは不安に思うこともありましたが、留学はせっかくの機会だからと割り切って5月末までドイツに滞在し、スケジュール自体はかなり忙しくなりましたが、比較的早く内定を頂きました。また、私自身は悩んだ末に参加しなかったのですが、商社などの企業は6月下旬ES提出、7月中旬面接開始という特別選考を留学中の学生を対象として行なっていました。ES提出の際に必要なテストセンター結果に関しては受験から一年以内であれば繰り返し結果を使うことができたので、インターン選考や外資系企業の選考などで留学前にテストセンターを受験しておけば海外からでもESを提出することは可能でした。

実際の面接での質問に関しては、留学の目的と将来の活かし方さえ考えてあれば採用選考で返答に困ることもありませんでしたし、プレエントリーの段階で6ヶ月以上の留学経験の有無を聞く企業もあったため、長期期間の留学はむしろアピールになることの方が多いと思います。

また、留学する前にOB訪問をしていたときにドイツ駐在中の方の紹介をお願いしていたということもあり、留学中に各国でお会いした駐在員の方のお話は海外で働く将来のことを考える上で非常に参考になりました。また、日本国内でなく海外から見た日本企業の見え方なども知ることが出来ました。駐在している方が現地でどのような生活を送っているかというのは、日本国内のみで就職活動をしてはなかなか分かりにくいことだと思います。

・留学が就職に対する考え方に与えた影響

同世代の他の国の学生たちが就職に対してどのような考え方をもっているのかという話は刺激になりました。ドイツで一度就職してから母国に帰って国の発展に貢献したいという留学生もいましたし、世界的な視野で良い条件で働ける環境を探すために国際経験を学生のうちに積みたいという学生もいました。もちろん、好きなことを大学で勉強して就職は卒業後に考えたいという学生もいましたが、ドイツでは取得した授業で扱った内容などが就職を左右することもあるため、授業の内容と職業の選択を関連づけて考えている人の割合は多かったと思います。

あとは、5月のメーデーのときには国際労働者の日として市内でデモがあり、ドイツの難民キャンプでボランティアしている学生とも知り合いました。驚いたのは彼らが高校を卒業した後の18歳前後の年齢にも関わらず、大学入学の年度を一年遅らせてボランティアに参加していたということです。彼らが言うには、大学の専門を決める前に自分のやりたいことを見つけるためにモラトリアムの期間を設ける学生もドイツには多いそうで、彼ら自身は難民キャンプでのワクチン接種の手伝いや難民ビザ発行の手伝いをする中で色々将来について考えているようでした。

このように留学中に多様なバックグラウンドを持つ人々に触れることで、自分の人生に取り入れたい考え方や自分自身の適性について考えるチャンスをもつことができたと思うので、留学前と比べて私自身も、より納得して自分の将来についての考えを次に進めることが出来るようになったと思います。

6.留学を振り返って

・留学の意義

渡航後の生活は留学前に予想していたよりもはるかに自由なもので、学校の先生や事務の方々が留学中の学生の意思を尊重してくれていることを度々感じるがありました。しかしその反面、留学で何を得たいかということは自分で設定し、それについて一から調べながら計画し実行する、という自主性と粘り強さが留学中はとても重要でした。留学はそういう活動なので、日本でのやることに追われた生活をリセットして自分を見つめ直すという意味では大きな意義があったと思います。

勿論、留学活動の途中では日本では目にできないものを目の当たりにしたり、日本では予期できなかったような状況にも直面するので、価値観の変化や行動力の成長などは自分でも感じるころはあるのですが、どうしてもそれらは留学によって得られたものの一部でしかないような気がして、正直なところ文章に留学の意義をまとめきるのは難しいと感じています。ただ、留学という選択肢を選らんだことについては全く後悔しておらず、貴重な経験を大学生生活中に得ることが出来たことに非常に感謝しています。

・今後留学を考えている学生へのアドバイス

私自身は渡航後も色々と振り回されてしまっただけで留学の機会を活かすことが出来たとは思っていませんが、留学は人生でも限られた時期にしか挑戦できないことなので、もし迷っている後輩がいれば絶対に行動に移した方がいいと思います。ただ、やはり留学にもそれぞれ適性というものがあるんじゃないかなともドイツで生活している期間は感じていました。少しでも早く留学に向けた行動をして、自分にとって留学が必要かどうか考える期間も重要だったと思いました。私の場合は、東京大学の授業の中でも留学生とのグループワークを行う授業に参加したり、外国人とのシェアハウスで一年ほど生活したりなど、渡航前から外国人の方との交流を積極的に行うようにして、留学渡航後のイメージを固めていっていました。

また、ドイツ語を学ぶ前は、将来全く使うことがないかもしれない言語を学ぶことに対して少々悩んでいました。語学を学ぶのはとても骨が折れることなので、将来使わずに忘れてしまうかもしれないと考えると、やはりモチベーションが下がってしまいます。それよりも英語を磨く方大事なんじゃないかと考えたときもありました。しかし、留学を終えた今となつては悩む必要はなかったと思っています。留学から帰ってきた後も、ドイツでの経験について話す機会はたくさんあり、その度にドイツ語をもっと勉強したいと思うようになりました。留学前に思っていた以上に、ドイツ現地で触れたものや感じたことというのは自分の身につけていて、ドイツというもう一つの母国をもったという感覚が今までよりもさらに人生を豊かにしてくれていると感じています。

大学院修了後の進路として自動車企業を選んだのも、ドイツにもう一度関わられる機会があるかもしれないという期待が理由の一つでした。留学中はあまり将来の仕事と留学の経験を結びつけようとしている人が多くなくともったいななども思っていたのですが、やはり将来的にその国と関わっていけると考えると留学生活もさらに充実していった気がします。

最後に、留学は本当に自由な活動なのでその経験から得るものも十人十色ですが、もし私自身の経験でこれから留学を考えている人の役に立てることがあれば、出来るだけ協力したいです。そういった方からフェイブック等で連絡を頂ければ可能な範囲で力になりますので、宜しくお願いします。